



2018

静岡県文化プログラム スペシャルトーク

2018

1

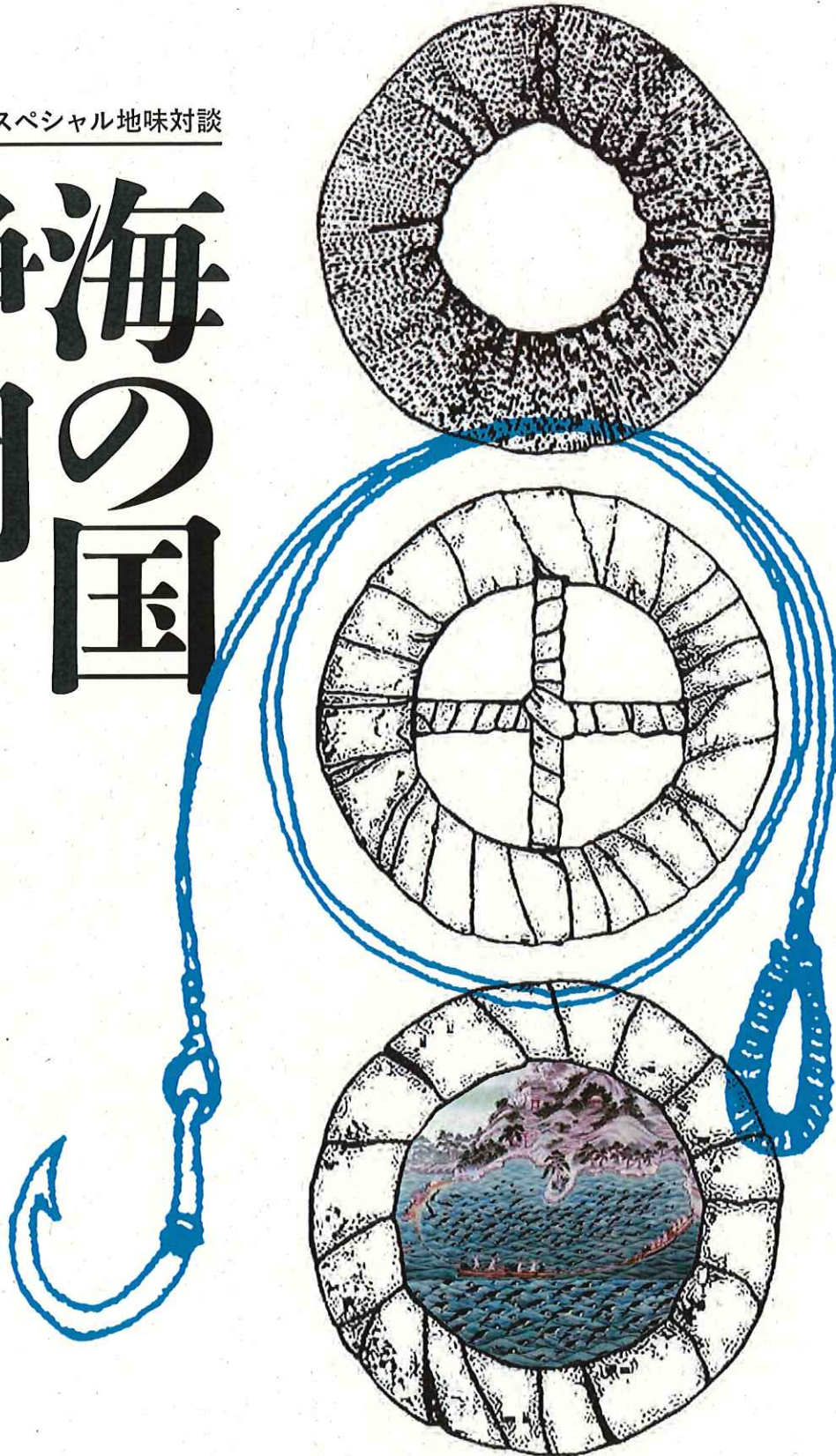
Advanced Program for Arts and Culture SHIZUOKA "Special Talk"

ADVANCED PROGRAM FOR
ARTS AND CULTURE
SHIZUOKA

地を味わうスペシャル地味対談

静海 岡の国

—美しい道具をつくることと
つくられた道具が美しいことをめぐる対話



木下直之 × 神野善治

静岡県立美術館館長 / 東京大学教授、文化資源学

Naoyuki Kinoshita × Yoshiharu Kamino

武蔵野美術大学教授・博士、民俗学 /
元武蔵野美術大学美術館・図書館館長

2018年9月9日(日) 15:00~17:00

会場 レストラン&カフェ「グランテラス」 静岡市駿河区東静岡2-3-1 グランシップ1F



一運窟国秀「マグロ網漁図」1907年

地を味わうスペシャル地味対談

静岡県文化プログラム スペシャルトーク 2018-①

木下直之×神野善治 海の国 静岡

—美しい道具をつくることとつくられた道具が美しいことをめぐる対話

2018年9月9日(日) 15:00~17:00

会場 レストラン&カフェ「グランテラス」 静岡市駿河区東静岡2-3-1 グランシップ1F

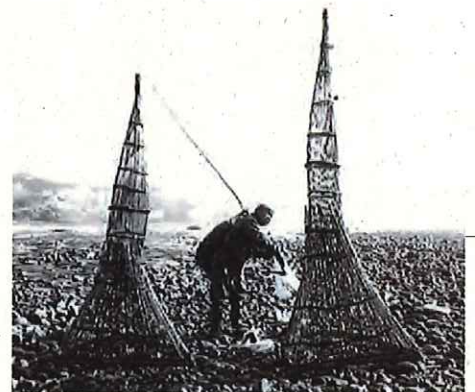
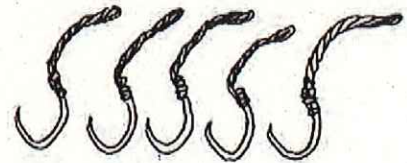
富士の国静岡は、海の国でもあります。駿河湾の深さは2500mもあり、仮に水を抜いてしまうと、富士山の高さは6000mをはるかに超えるのです。

こんなふうに、海面下にも広大な世界が広がっています。この海を相手に、ひとひとがどんな暮らしを営み、どんな文化を築いてきたのか、道具を通してそれを考えることにしましょう。このチラシの3つの丸い輪はいったい何に使う道具なのか、写真の道具は何か、種明かしは対話の中で行うとして、まずはなぜ神野善治さんをゲストにお迎えするのか。

2回目となるスペシャルトークを、私は「地を味わうスペシャル地味対談」にしたいと思いました。それぞれの土地から生まれ、それぞれの土地に根ざした道具について語りたと思ったのです。すぐに対談相手に浮かんだのが、武蔵野美術大学で民俗学という地味～な研究を続けて来られた神野さんの地味～なお顔でした(失礼!)。道具という道具を知り尽くした人です。

美術大学は美術家を育てる。「地域とアートが共鳴する」をかかげるこの文化プログラムは、ともすれば美術家やアーティストを中心に、地域に「美しいもの」をつくらうとします。そうではなく、その逆、つくられたものが「美しい」世界に目を向けたいのです。すなわち、美しい道具をつくるのではなく、つくられた道具が美しいことについて語り合おうと思います。

木下直之



神野善治 (かみの・よしはる)

武蔵野美術大学
造形学部教養文化・学芸員課程教授・博士(民俗学) /
元武蔵野美術大学美術館・図書館館長

1949年東京生まれ。沼津市歴史民俗資料館学芸員、文化庁文化財調査官を経て、1997年より武蔵野美術大学。「人の身体と道具」「時の伝承」「人形の民俗」などを長い間こたわって研究。編集と執筆に関わった民俗誌には『沼津内浦の民俗』『静岡県史 民俗・II・III』『沼津市史民俗編』『戸田村史民俗編』など。研究では『釜漁の研究』(沼津市歴史民俗資料館紀要6・7)で日本民俗学会研究奨励賞受賞、『人形道祖神—境界神の原像』(白水社1996)で柳田國男賞を受賞。ほかに『狩野川—その風土と文化』(共著・静岡新聞社1979)、『木堂論(こだまろん) 家・船・橋の民俗』(白水社2000)などがある。



木下直之 (きのした・なおゆき)

静岡県立美術館館長 /
東京大学大学院
人文社会系研究科教授(文化資源学専攻)

1954年浜松生まれ。東京藝術大学大学院中退後、兵庫県立近代美術館学芸員、東京大学総合研究博物館助教授を経て、2000年より同大学院人文社会系研究科に所属。2017年より静岡県立美術館館長兼務。日本動物園水族館協会顧問。19世紀日本の文化を、美術・写真・見世物・祭礼・記念碑・博物館・動物園・戦争などの観点から研究している。2015年春の紫綬褒章。2017年中日文化賞。主な著書に『美術という見世物』(平凡社1993/サントリ学芸賞)、『銅像時代』(岩波書店2014)、『せいきの大問題』(新潮社2017)など。

お申込み方法 氏名・電話番号・住所・メールアドレス(お持ちの場合)を記載の上、下記いずれかの方法でお申し込みください。

静岡県文化プログラム「スペシャルトーク①」

E-mail: info@shizuoka-ac.org

FAX: 054-283-8086

往復はがき: 〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2-3-1 グランシップ1F

申込締切 9月5日(水) **定員** 先着50人(定員を越え、ご参加いただけない場合を除きご連絡はいたしません。ご了承ください)

お問い合わせ 静岡県文化プログラム推進委員会 TEL: 054-204-0310 (9:00~17:00/平日のみ)



静岡県文化プログラム

オリンピック・パラリンピックは、スポーツだけの祭典ではありません。オリンピック憲章では、「オリンピックはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探索するもの」とうたわれ、競技大会の組織委員会が「文化プログラム」を実施することが定められています。

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた文化プログラムは、スポーツ競技が行われる地域だけでなく、日本全国で開催されることになっており、静岡県文化プログラム推進委員会は、文化・芸術振興や文化・芸術による地域・社会課題対応を目指して、様々な団体等との協働による取組を進めています。